

人吉基地資料館の 運営改善申し入れ

錦町へ市民グループ

先の大戦の歴史などを伝える錦町立人吉海軍航空基地資料館(同町木上西)をめぐり、県内で戦争関連遺跡などの調査・研究を続ける市民グループが7日、運営方法の改善や展示内容の根拠の開示などを町に申し

入れた。

申し入れたのは「人吉戦争遺跡を伝えるネットワーク」と「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」。有識者や町民などが参加する運営協議会の設置▽指定管理者の選定基準



人吉海軍航空基地資料館の展示をめぐり、森本完一・錦町長(右端)に要望する市民グループのメンバーたち＝町役場

づくり▽館で明示している人吉海軍航空基地跡の範囲と、墜落した「零戦」の部品特定の根拠の公開▽現存する基地関連の壕の調査・文化財指定——などを要望した。

町によると、年間1万人の来館をめざす資料館に8月の開館から1カ月で3千人以上が訪れた。一方で、館の愛称「山の中の海軍の町にしき ひみつ基地ミュージアム」などについて、愛知県で8月にあった戦争遺跡の保存に関する全国シンポジウムで「戦争遺跡を美化したり集客目的に利用する傾向がみられる」と批判もされている。

申し入れで、資料館の目的などを定めた設置条例案に明示のない「平和」を求める文言を盛り込むことも求めたネットワーク側に対し、森本完一町長は「平和という文言はないが、戦争の醜さ、恐ろしさ、平和の尊さを学び取ってほしい。見解の相違です」と述べて応じなかった。展示内容の根拠については「しっかり考えて調査したい」と答えた。